

第 2 回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 文化芸術部会会議録

会議名	第 2 回 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 文化芸術部会
事務局	地域のちから推進部 地域文化課
開催年月日	令和 7 年 8 月 7 日（木）
開催時間	9 時 59 分～11 時 44 分
開催場所	ギャラクシティ 3 階 多目的室 1
出席者 （敬称略、順不同）	西岡龍彦（東京藝術大学 名誉教授）／荻野美恵子（東京都盲人福祉協会 女性部会長）／葛西啓之（株式会社いのちとぶんか社 代表取締役社長）／傍嶋賢（SOBAJIMA STUDIO 代表）／田島のぞみ（区民（公募）） 大久保中央図書館長・3 分野連携担当課長／江連地域文化課長・生涯学習支援課長／齋藤生涯学習支援課文化・読書・スポーツ連携推進担当／早川地域文化課調整係長／勝倉地域文化課調整係主任
欠席者	小泉ひろし（区議会議員）
会議次第	別紙のとおり
資料	資料 1 第 1 回文化芸術部会における主な意見及び今後の方針 資料 2 文化芸術部会 評価集約結果 資料 3 足立区文化芸術推進計画 施策評価シート（案） 資料 4 区民アンケート 新旧対照表 資料 5 区民アンケート調査票（16 歳以上用）（案） 資料 6 区民アンケート調査票（小 5・中 1 用）（案）
その他	傍聴者 なし

(審議経過)

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

定刻となりましたので、ただいまから第2回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会文化芸術部会を開催させていただきます。

本日は、お忙しい中、また暑い中、本部会にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

本部会の事務局を務めさせていただきます、地域文化課長の江連と申します。よろしくお願いいたします。

なお、事務局としまして、同じく中央図書館長兼3分野連携担当課長の久保が同席させていただいております。よろしくお願いいたします。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

よろしくお願いいたします。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

初めに、会議の前に4点ご連絡させていただきます。

まず本部会、本日は小泉委員がご欠席というご連絡をいただいておりますが、過半数のご出席をいただいておりますので、部会が成立していることをまずご報告させていただきます。

次に、本部会は条例で公開を原則としておりますので、会議録をホームページ等で公開させていただきます。そのため、次第に入りましたら、ご発言の際には最初に委員名をおっしゃっていただくからご発言をよろしくお願いいたします。

なお、記録のため写真撮影もさせていただきますので、併せてご了承ください。

最後に、本日の資料についてご案内いたしますが、本日の資料は次第の表面にあるとおり、資料1～資料6までインデックスをつけてお配りしておりますので、随時次第に沿ってご説明させていただきますので、ご用意をよろしくお願いいたします。

また、閲覧用として、3分野計画、現在のものの冊子をお手元にご用意しておりますので、必要に応じてご参照いただけたらと思っております。

それでは、ここからは西岡部会長に進行をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

■西岡部会長

それでは、進行を代わらせていただきます。

改めまして、文化芸術部会の部会長を務めさせていただいています西岡です。どうぞよろしくお願いいたします。

本当にすごい暑さですね。昨日もすごかったのですが、今日もすごい湿気で、お出かけいただいて本当にありがとうございます。

本日の部会は9月下旬の第3回全体会に向けた最終的な意見調整の場になります。本日は現計画の評価と新計画に向けたアンケート調査票の検討が主な議題となります。具体的・実効的な結論をまとめていきたいと思っております。

各委員の皆様には短時間のうちにコメントをまとめていただいて、本当にありがとうございました。事務局は、そのコメントの集約、お疲れさまでした。

それでは、早速次第に沿って事務局から説明をお願いしたいと思います。

1 第1回文化芸術部会における主な意見及び今後の方針について

■西岡部会長

まず次第の項番1「第1回文化芸術部会における主な意見及び今後の方針について」、事務局から説明をお願いいたします。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

事務局の江連から説明させていただきます。資料1をご覧ください。

前回の部会の中で頂きました意見4点を整理させていただきました。3と4につきましてはアンケートの際にご説明させていただきますので、ここでは1と2の内容についてご説明させていただきます。

まず1つ目につきましては、えんチャレの登録団体の件についてでございます。実績値が8団体となっておりますが、目標数値の13団体に届いていませんよという状況の中で、実際には新規の1団体が不合格で、5団体が更新で不合格となっているため、実質、目的としては13団体に近い数字になっているというところを前提で、この辺の指標について何かしら申込状況も反映した指標にしたほうがいいのではないかというご意見を頂きました。確かにこの指標のために審査を緩くするというわけにはいきませんので、しっかりとした審査はしていかなければいけないという前提の中で、区民の中からそういう意欲がある団体がいるということもやはり一定程度反映する必要もあるかなと思いますので、今後指標については考えていきたいと考えております。ありがとうございました。

続きまして、アンケートについてでございます。施策4-2の中に「ゆるやかにプラットフォームを形成し、足立区の文化芸術の活性化を図る」とございますが、その指標と少しマッチしていないのではないかというご指摘がございました。確かにプラットフォームを形成する指標を作るのがなかなか難しいところではございますが、指標の再考も含めて新計画の中で検討していきたいと思っておりますので、頂きましたご意見を反映できたらなと考えております。

私からは以上です。よろしくお願いいたします。

■西岡部会長

ありがとうございました。

2 文化芸術分野の評価について

■西岡部会長

続いて、次第の項番2「文化芸術分野の評価について」、事務局から説明をお願いします。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

引き続き事務局の江連のほうからご説明させていただきます。資料2と3をご用意ください。こちらが今日のメインテーマになります。

まず、前回の部会から短い期間の中で指標・コメントを提出いただきまして、誠にありがとうございました。

資料2につきましては、各委員様から頂いた意見を各施策の柱ごとに全て記載したものになります。コメントと指標の点数を併せて記載させていただきまして、その一番右側に皆様の点数の平均を挙げさせていただいております。最終的には、点数は整数、少数点以下は入れないのですが、今回は参考に、3.5は4になってしまうので、その辺のあんばいも含めて小数点1桁まで記載させていただきました。

こちらの資料 2 から、資料 3 の 5 番、右の中段にあります「推進委員会による評価」、こちらの点数とコメントのほうに集約をしていくというところが本日の意見のすり合わせになります。まず事務局と部会長のほうでこちらを暫定的にまとめたものがございますので、この内容についてご議論いただけたらなと思っております。点数につきましても、現状は四捨五入で記載させていただいておりますが、例えば「3.4 だけど、これは 4 に近いかな」とか、逆に「3.5 だけど、これは 3 じゃないか」みたいなのところの点数の検討もいただけたらと思っております。また、今後の新計画の策定に向けた提案・ご意見も併せていただけたらなと思っておりますので、よろしくお願いします。

なお、最後の最後で、すみません、資料 2 の点数は差し替えがございましたので、資料 3 と少し点数にそこがある部分もございますが、こちらは柱を検討していく中で少し訂正させていただきながら進めさせていただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今回は短い時間で、この部会は 9 つの柱がございまして、一つ一つの時間が十分に取れるかは分かりませんが、その辺はうまくご進行いただけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

私からは以上です。

■西岡部会長

事務局から評価の進め方についてご提案がありました。この進め方でよろしいでしょうか。

それでは、資料 2 をご覧ください。評価の集約結果、それから資料 3 の施策評価シートを使用して、各施策について意見交換を進めさせていただきます。早速 1-1 から始めたいと思います。

1-1 ですが、前回、資料 3 のほうの左ページについては一応確認されているので、そのまま右ページの 5 の部分でよろしいですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

はい。

■西岡部会長

では、最終的にまとめなければいけない形というのが、一応資料 3 の右側のページ、「5 推進委員会による評価」の部分なのですが、このようになっております。ざっと目を通していただいて、ここの中で何か疑問点あるいは修正点とか、評価の点数についてはその後になりたいと思うのですけれども、ここに書かれている内容についてご意見はいかがでしょうか。

では、簡単に 5 に書かれていることについてご説明いただいてもよろしいでしょうか。私から読みましょうか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

はい。

■西岡部会長

それでは、「5 推進委員会による評価」について、これはまだ仮の形なのですけれども、ここに書かれている項目についてのご意見を頂きたいと思うのですけれども、「現在の達成状況」への評価」ということで、「指標①について、令和 8 年度の目標（80%）を達成するため、事業の取り組みや魅力などをワンポイント講座のようにあだち広報等で紹介するなど、周知を工夫されたい」ということです。

これについてはいかがでしょうか。広報については随分いろいろ工夫していただいて改善されて、それなりの成果は出ていると思うのですけれども、これについてはよろしいですか。

では、今のところで、「指標③④については一定の評価をするが、北千住だけでなく他の地域でも

文化に親しめる取り組みに力を入れて欲しいと思う」と。確かに足立区は北千住中心で、あまりにも偏り過ぎだとは思いますが、これをどうするかというのは大きな問題かもしれません。他の地域の取組に力を入れるのは当然必要でしょうし、具体的にこれは考えていかなければいけないことだと思います。

これはいかがでしょうか。

■葛西委員

葛西です。私もこの観点はすごく重要だと思っていて、何となく「達成状況」と「今後の方向性」を見る限り、シアター1010での文楽公演というのが非常に成功事例として挙げられているのかなと思っていて、それ自体はとてもいいことだと思うのですが、一方で、それは構造的な成功であって、場所とコンテンツというものを、シアター1010で文楽公演ができて、それが区民の方に非常に評価されたから毎年必ずシアター1010で文楽をやるのであるということではなくて、同じような構造で、いわゆる都心というか、世の中全体的に人気のある質の高いコンテンツを足立区のいろいろなところで見られるようにするという成功事例というか、その構造的な成功事例だと思うので、これをシアター1010に限らず、さらには文楽というコンテンツに限らずにどう広げていくかということが今後大事なのかなと、(2)にも重なるのですけれども、思った次第でございます。

■西岡部会長

文楽の公演というのは、やはりかなりの準備と規模の大きさというのがありますから、それについては会場に限られるというのがありますけれども、ただ様々なバリエーションは必要ですね。

その場合、具体的な活動につながるような案みたいなものは何かありますでしょうか。

■葛西委員

ごめんなさい、私、今回提出がすごく遅くなってしまって、申し訳ございません。

資料2の「「今後の方向性」への評価」の一番下のところに、「文楽の招待公演が成功事例として挙げられているが、文楽のみに縛られず、幅広いコンテンツを足立区で鑑賞できる環境を準備することが重要である」というようなことを書かせていただきました。

■西岡部会長

これは、今後は文化・芸術の分野として具体的にいろいろな方策が立てられそうですし、実際にすぐに現実に移せそうな課題ですね。ありがとうございます。

それでは、次に行かせていただきます。

「「今後の方向性」への評価」ということなのですからけれども、文楽公演についてはこれでよろしいですね。

そして、「ストリートピアノの導入は音楽に触れるきっかけになるので評価したい。集客のためのゲストパフォーマー出演やイベントのコラボは、予算の検討も必要だが有効と思われる」ということでした。

ストリートピアノについては、前にも説明があったのですけれども、このままの状況で何か問題点とかはありますか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

やはり場所が限られるというところがあります。屋外ですと天候等の問題がありますし、現状は北千住の駅の改札の前でやってはいるのですけれども、北千住の改札はメインのところと裏のところがあって、メインのところはやはり場所的な、例えば品川駅とかああいう広いスペースがないので、そういったところは限られるかなと思っています。

あとは、ほかの駅も含めてどんどん広げていくという必要性はあるかなと思います。先ほどの千住に捉われずというところがありますので、幅広く区内各所でやっていくような工夫は必要なのかなと思っています。

■葛西委員

今はどちらにあるんでしたっけ。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

ストリートピアノは、ギャラクシティ、この下にあるのと、あとベルクスさんであるとか、綾瀬の「あやセンター ぐるぐる」とかですね。あと興本センター。一応、できる場所は結構分散してあるのかなとは思っています。

■西岡部会長

これは公演ごとにかかなり面倒な手続とかが必要に？ 動線の確保とか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。

■西岡部会長

今ある分については比較的楽なのですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。移動とかは業者さんがやりますけれども、今はギャラクシティの事業と区の共催でやったりもしていますので、比較的やりやすくはできるかなと思っています。

■葛西委員

これは純粋な疑問なのですけれども、やはりストリートというのは世の中的にピアノだけなのですか。ストリートバイオリンとか、ストリート和太鼓とかは。

■傍嶋委員

僕も同じことを考えていました。

■葛西委員

「文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」機会」という目的に沿うと、ピアノ以外にもあっていいのではないかと感じてしまいました。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

よく YouTube で見ると、ピアノとバイオリンがコラボしたりとか、千住でも親子で子どものバイオリンとお母さんのピアノでコラボしたりとか。

■葛西委員

でも、そのバイオリンは多分、通りがかりで持っている人が参加したというものですよね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。

バイオリンを置いてということですか。

■葛西委員

はい。

■田島委員

盗られてしまうことはないですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

職員もというわけではないですけれども、裾野の広さからいくとピアノで、バイオリンですと 30

万とかそんな、全国的にも。

■葛西委員

そうですね。誰でも弾けるというのは。

■傍嶋委員

太鼓はいいですね。ストリート太鼓。

■葛西委員

ぜひ和太鼓はどうですかと。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね、和太鼓も。

■西岡部会長

1つの楽器で音楽全体をまとめるということになると、どうしてもピアノに偏りがちですけどもね。

■葛西委員

そうですね。

■田島委員

管理しているのですか。誰かが見守っているということですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

受付をして、職員も一緒にいるので。イベントの場合はですね。

■田島委員

なるほど。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

各センターとかにあるやつは、その職員さんの目の見えるところにあるので。

■西岡部会長

太鼓なんかだと、ふだんたたいていない人がたたいてみたいということも。

■葛西委員

でも、2日でクレームが来て、中止になると思いますけれども。

■傍嶋委員

音が鳴らないとか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

ミニ講座みたいな形でやるのはあるのかもしれないですね。

■傍嶋委員

たまに夏祭り近くになると神楽っぽいのが遠くから聞こえてくるのは何か風情があるので。

■西岡部会長

そうですね、季節感が。

■傍嶋委員

文楽講座をやったりとか、昔の江戸のカルチャーというのがある中で、ピアノはどちらかというとヨーロッパとか。

でも、日本的な、それが町に流れていると、海外の人とかが太鼓と触れ合う機会になるので、やはり足立区として特徴を出すなら、葛西さんがおっしゃったような発想は面白いと思うので、これはアイデアベースだと思いますけれども。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

太鼓とか、おはやしとか。

■事務局（地域文化課調整係長）

和太鼓の体験会みたいなものをしていましたよね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

おはやしなんかは、郷土芸能大会をギャラクシティでやったときに触れられたりだとか、あと各イベントのところで子どもも体験できるような機会は設けているところですね。

■西岡部会長

太鼓なんかは一番やりやすいですよ。邦楽器というのはやはりちょっと難しいものが多いので、和太鼓なんかは比較的いいですね。

■葛西委員

ちなみに、すごい雑談をしていいですか。

■西岡部会長

はい。

■葛西委員

昔、葛飾区と電話ボックス太鼓をやろうとか言って、銭湯のプロモーション企画で、亀有の駅で防音の電話ボックスみたいなものの中に太鼓を入れて、仕事帰りにストレス発散で太鼓をたたいてもらって、太鼓をたたくと汗をかくから、そこで銭湯のクーポンを配って銭湯に呼び込むみたいなことをやって、最終的には没になってしまったのですけれども、そんな面白い取組が足立区でも。

■西岡部会長

サウナ状態になってね。

■葛西委員

そうそう。

ストリートピアノは結構全国どこでも今やっていると思うので、それを軸として足立区ならではのコンテンツが生まれるとさらに面白いのかななんて、ごめんなさい、無責任な発言ですけれども、思った次第でございます。

■事務局（地域文化課調整係長）

参考にいただいております。ありがとうございます。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

太鼓と銭湯は、なかなか組み合わせなかったですね。

■葛西委員

足立区も銭湯はいっぱいあると思うので。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。

■西岡部会長

面白い企画ですね。

■傍嶋委員

傍嶋です。「気づく」というところが多分、施策面であるので、鑑賞に重きを置くのか、今みたいに体験に重きを置くのかというのは、そのバランスが大事なかなと思って、だから今議論があったところを踏まえて次につなげてほしいなと思います。

■西岡部会長

1つ飛ばしてエのところになるのですけれども、今はイのところでストリートピアノが出ましたが、エのところで「伝統文化の継承や紹介について」ということがあります。現代の生活様式とギャップがあって、参加のハードルが高くなりがちなのですけれども、工夫次第によってはというのが今まさにそういうことなので、ある種の足立区としてのこういう活動のテーマ性みたいなものというのは大事かもしれないですね。

ということで、今のイとエはちょうど関連する項目なので、これでいいかと思います。

それで、ウのところなのですが、「中長期の取り組み」、これはちょっと難しいのですけれども、「具体性に乏しいように感じる。中長期とはいえ、もう少し具体的に記載して欲しい」ということなのですけれども、もちろん大事なことなのですけれども、これは具体的にというか、中長期の取組についてどういうことが乏しいということだったのですかね。

■田島委員

「区民が文化芸術を楽しむために、子どもから高齢者、障がい者や外国人など、誰もが文化芸術の魅力に「気づき」、楽しいと思える出会いの機会を充実させていく」というのは、かなり漠然としていますし、結構誰もが楽しめるコンテンツを探すというのはすごく大変だと思うので。外国人は誰でもみたいな。なので、もう少し方向性があったほうが、取ってつけたような言葉をただつけているように感じてしまうというか、もうちょっと考えて、方向性があったほうがいいのではないかなと。

■西岡部会長

広い取組ということと、それからテーマ性というのがいつもなかなか難しい問題なのです。

■田島委員

ちょっと思ってしまった次第です。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

次の施策の1・2に、子どもの成長に応じてみたいところもありまして、ライフプランに沿ってどういう機会にどういうものを、ターゲットを絞りながら、次は子どもだけなので、例えばタイアした65歳からまた人生を豊かにする趣味を始めるとか、逆に子どもが中学生・高校生になってくると、親の手が離れたタイミングで、どういう機会を区のほうで周知して気づいてもらうかみたいなところのライフステージに応じた区の発信というところを具体的にすると、それで何をするかはその後の施策になってくるのですけれども、方向性としてはその辺が必要なのかなとは感じていますので。

■西岡部会長

今のようなことは少しここに盛り込めますよね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

はい。

■西岡部会長

ウについては、具体的に書けるようなことはあるかと思います。ありがとうございました。

それでは、何か足りないこととか付け足したほうがいいことはございますか。大丈夫ですか。

それでは、評価も今ここで確認しておいたほうがよろしいですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

お願いします。

■西岡部会長

評価については、これは出てきたもので、何かこの数字で気をつけておかなければいけないこととかはありますか。この3という数字がかなり上下の幅があるかもしれないのですが、ここについては問題ないですか。よろしいでしょうか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

3でオーケーということですね。プラスアルファがあったら4、5になるというイメージでよろしいです。

■西岡部会長

では、ありがとうございました。

■葛西委員

結構皆さん厳しいというか、一応指標③と④を見ると達成率が90%を超えているので、ここで3だと、ほかはどうなってしまうのだろうというような心配もありつつ。

■西岡部会長

そうですね。達成率90%で3というのも確かにちょっと厳しいですね。

■葛西委員

でも、全然。多分今みたいな中長期の具体性とか、そういったところなのかなと。

■西岡部会長

ありがとうございました。

では、この1-1についてはこれで、後でまた何かお気づきのことがありましたらご意見いただければと思います。一応次に行かせていただきます。

それでは、1-2をよろしいでしょうか。これも資料3の右ページのほうの「5 推進委員会による評価」のところに行きたいと思います。

「現在の達成状況」への評価」なのですが、「指標②については、達成率も順調に伸びており評価できる」と。

達成率は順調ということで、これは具体的に見るところというのが令和5年の部分でよろしいのでしょうか。そうですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

はい。

■西岡部会長

これで、64%、71.2%ということで、これはかなり伸びていますね。なので、これについては問題ないと思います。

イの芸術鑑賞体験事業の実施については、ミュージカルですね。これは学校の保護者からも評価が高いということで、これもよろしいでしょうか。ミュージカルについてはいかがですか。足立区はすごく予算と力を入れて、いい成功例だと思いますので。

それから、ウのところですね。「はらぺこあおむしショー」については、参加希望者が応募人数をはるかに上回っており人気がかがえる一方で、応募した半分の方は参加が出来ていないのでより多くの方が子供が小さいころから芸術に触れる機会を増やしてほしいと思う」ということなのですが、半分ぐらいの子どもさんたちが体験できないということですから、これは何か方策を考えると。

出し物としてはどうなのでしょう。公演のテーマ性というか、そういうものについては。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

やはり小さなお子さんから認知度の高い「はらぺこあおむしショー」ということで、非常に好評で、応募者が非常に多かったというところで。

これは寄附ですよ。

■事務局（地域文化課調整係長）

そうです。朝日信用金庫さんから寄附いただいて、それで考えたのですけれども、赤ちゃんも見られるということで、ぎやあぎやあ騒いでいてもみんな騒いでいるので大丈夫だという、本当に小さいお子さんから楽しんでいました。実際、見ている絵本がそのまま舞台上でやっているの、子どもはすごく喜んでいました。

■西岡部会長

演劇的な感じですか。

■事務局（地域文化課調整係長）

そうです。

■西岡部会長

映像ではなくて、演劇的なショーになっているわけですね。

■事務局（地域文化課調整係長）

映像ではなくて、あおむし君の大きいのが出てきたりとか、そういう感じで。あと中央図書館さんにもご協力いただいて一緒に本が置いてあったりとか、隣でやっていましたね。あと、ふわふわの遊具みたいなものもありましたね。同時にシアター1010の横でやってたりしていたので、子どもたちもすごくたくさん集まっていました。

■西岡部会長

これは読書のほうとも多少は関連があることになるわけですね。

■事務局（地域文化課調整係長）

そうです、一緒にやっていただいたので。

■西岡部会長

ありがとうございます。

では、その次の「今後の方向性」への評価」なのですが、「子どもの心の成長に活かせる芸術鑑賞体験事業として、より良い演目などを精査していくことは重要であり評価する」と。これは、文章としてはどうなのですかね。

これでよろしいですね。

今のところは、「子どもたちを中心とした鑑賞機会の提供は、文化芸術への興味関心を育むうえで極めて重要であり、今後も継続的に実施されることが望ましい。加えて、既存のプログラムに加え、デジタル技術の活用や学びと結びつけた体験型企画など、新たなアプローチによる展開が期待される。これにより、さらに幅広い層への訴求が可能となるだろう」ということですが。

■傍聴委員

これは多分僕ですね。舞台とかミュージカルにしても、やはり出向いていかなければいけないことが多いので、最近はこちらの子もそうですけれども、家の中にいるとYouTubeなり何なりがあり、例えばそういった足立区から発信する子ども向けのコンテンツみたいなものを作って提供すると、より幅広く提供できるのかなというのがあって、より未来的な思考で言えば、出向くより、むしろそういった情報として発信するというのが。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

身近な、手軽に。

■傍嶋委員

そうですね。うちの子もすぐ YouTube を見て、ずっと。それが情操教育に役に立つものであれば、コンテンツとしてあっていいのかなという意見です。

■西岡部会長

これは、何かアウトリーチ的なものと結びつけていくような、いろいろな団体と連携みたいな。

■傍嶋委員

そうですね。いろいろな団体とか、例えば団体が作ったコンテンツを子どもたち向けの読み聞かせだったりとか舞台であったりというのを足立区民向けに、子どもたちとかに。例えば足立区の LINE があるじゃないですか。要は、「幼児向けの動画を作りました」というので、そうすると子育て世代とかもそういうのを読み聞かせるとか。やはりこうやって先着で漏れてしまう方がいるじゃないですか、あおむしとか。そういったものをフォローするというのは必要なのかなと。それがどなたでもという、そういうのを期待したいですということですね。

■西岡部会長

つまり、こういうコンテンツがあるぞということの情報提供と、それから周知とか、そういうことは先ほど出たプラットフォームのようなところで関連させて、うまく回っていくような形が理想ですね。

■傍嶋委員

理想ですね。今後の方向として。

■西岡部会長

ありがとうございます。

ウのところで「中長期の取り組み」がまた出てきたのですけれども。

■田島委員

「成長段階に応じた文化芸術体験事業を提供する」というのはいいと思うのですけれども、「子どもたちが、楽しく力強く生きていくために」というところはもう少し砕いて、スペースがあるのに何で書かないのだろうなみたいな、ちょっと感じてしまいました。

■西岡部会長

これは先ほども出ていましたけれども、成長段階に応じた提供というのは、いろいろなコンテンツを作る上で一つ大きなテーマになってくるのではないかと思います。

■田島委員

質問なのですが、「中長期の取り組み」の「中長期」というのはどれぐらいのスパンを考えていらっしゃるのでしょうか。20 年、30 年ですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。0 歳から子どもが成長する 18 歳ぐらいまでを、さっきのライフステージではないのですけれども、1 区間としてですかね、中長期というと。

■田島委員

18 年ぐらいということですか。

■西岡部会長

ただ、アンケートの年齢の分け方がありましたよね、子どもさんの。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

アンケートは、16 歳以上の区民の方ということと、あとは小中学生で分けている形になります。

■西岡部会長

では、取組としては、もう少し細かく。

■田島委員

細かく書いてもらったほうが。スペースが足りないのであればしょうがないと思うのですけれども、結構あるのではないかなと思ってしまいました。

■葛西委員

私もその点、今の中長期のほうもですし、上の「劇団四季に限らずよりよい演目を精査するなど」というところで、やはり子どもに向けた文化・芸術の機会というのは、とにかく選択肢というか、幅の広さが物すごく大事だと思っていて、ごめんなさい、これは個人的な感想になってしまうのですけれども、やはり特定の文化・芸術にのみ触れるというのは、教育上いろいろな選択肢を届けてあげるということのがやはり子どもたちには。それは特にこれからの時代、海外文化まで含めて、とにかくいろいろな選択肢を提供してあげることが大事なんじゃないかなと個人的には思っていて、一方で、民間でやっている立場からすると、それはすごく難しいと思うんですよ。ホールさんも、主催公演を決める上でやはり毎年つながりのあるところとのほうがやりやすいでしょうし、私も民間の立場からするとそのほうがありがたいとか、やはりつながりがあって、契約に結びついてとかもあるのですけれども、一方で、それはこの立場になって考えると非常にリスクだなとは思っていて、区の方は多分そう思っている方がたくさんいらっしゃると思うのですけれども、実際に指定管理をやられている民間の方々がどこまでそういった、区の文化・芸術を広く子どもたちにいろいろなジャンルを届けたいみたいな観点でしっかり選別して、いろいろなアーティストからの提案をちゃんと考えるかみたいなところの連携はとても大事だと思っていて、何かそういった足立区さんの成長段階に応じた文化体験事業を提供するんだみたいな思いがもう少し強く伝わる書き方にしてもいいのかなということにはちょっと思ったりしました。

■西岡部会長

難しい問題ですね。

■葛西委員

難しい問題で、特に劇団四季を呼ぼうとなったときに、極端な話、1 年やらないで、また再来年になんていうと、分からないのですけれども、「毎年やってくれるから料金はこれぐらいにしますよ」とか、いろいろな民間の事情は絶対に出てくると思うんですよ。絶対にある。それは民間の立場からするとすごく理解もできますし、あれなのですけれども、やはり区の事業となったときに、そういった民間のコストパフォーマンスとはまた別の観点の意思を強く持つというのは、私もこの立場で見せていただいて、大事だなと。

■西岡部会長

今おっしゃったことは確かにそうだと思ったのですが、運営上の効率みたいなこともあるので、ただジャンルとか分野を広げるというわけにはいかないですよ。

■葛西委員

そうですね。

■西岡部会長

指定管理者制度の中の演目については、区のほうとのいろいろな話合いとかはあるんですか。

■葛西委員

もちろん、それはそうですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

事業計画を出していただきながら、やはり偏りがあるとか。

■葛西委員

その辺も、ただすごく切り込んでしまうと。

■西岡部会長

すごくやりにくくなる。現場のほうがね。

■葛西委員

切り込んでしまうと、多分指定管理の声の大きさが強いと思うんですよ。特に文化・芸術の場合、専門でやられている民間企業さんの提案力とかが強いと思うので、その辺のバランスは、それはどこの自治体もそうだと思うのですけれども、大事だよと改めて思いますね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

先ほどのストリートピアノではないですけども、やはり核となる、継続する、ずっと続けていくものと多様性を重んじるもののバランスをうまく取りながら出していくような。

■葛西委員

そうですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

いろいろな楽器に触れる、いろいろな音楽に触れるという機会は、みんながピアノをやる必要はないので、その辺の提案というのは区のほうからもうまく指定管理の事業者と連携しながらやっていくことが必要ですね。

■西岡部会長

ほかの区と似たようにならない、足立区の独自性というのをいかに出すかということですよ。

■傍嶋委員

アイデアベースだとは思いますが、劇団四季とかは多分小学5年生とかを対象にしたりしているのですけれども、多分はらぺこも、来てもらうというのが前提なので、例えば学校に出張するのもいいと思うんですよ、小学校とか。例えば体育館に1つの学年を集めたり、保育園に行ったり。例えば、えんチャレの人たちが学校訪問して、多分いろいろなスキルを持っている。えんチャレに限らずいろいろなアーティストとか太鼓とか。だから、それが成長に応じてということで、高学年、中学年、低学年とか、未就学児とかを分けて、出前講座的なことで触れ合う機会があると学校との連携だったというのも含まれて、和太鼓が行ったりとか、そうするとバラエティーが増えるのかなとは思っています。

ただ、劇団四季みたいな大きいドーンというのがあると、それはそれでやっている感はすごくありつつ、やはりバラエティーに富んだ文化・芸術の幅広い感性を養う施策があってもいいのかなと思いました。

■西岡部会長

ウのところなのですが、中長期の取組が漠然としているので、何々など具体的に記載するという事で、やはりここもある種の具体例みたいなものを添えて書くということではいかがでしょうか。

■葛西委員

ちなみに、学校の芸術鑑賞会は3年に1回で、たしかテーマが伝統文化と演劇と、何でしたっけ。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

合唱と美術と演劇が3年ごとに入っていたんですね。

■葛西委員

そうですね。それで、毎回毎回絶対に変わらなと思うのですが、区のこういう一般市民向けの事業というのは、そういう決まりみたいなものはあるんですか。それは特にない？

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

特にはないですね。

■葛西委員

一部、例えばこういう寄附金とか、……でもそれは無理なのか。

毎年絶対にできる事業に関しては、何かそういった取決めで毎年テーマかジャンルを変えるみたいなものも、それこそ成長段階に応じたという意味においては。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

基本的にどの分野も一通りやっているのですね。区展が美術であったり、あと文化のちから体験会事業というシアター1010 でやっている毎年3 演目を区が買い取って無料で招待するようなものもやったり、あとは音楽であれば、ギャラクシティ文化ホールでは例えば足立シティオーケストラとか、そういうところも支援している団体がやったりして、基本的には全分野を一通り毎年やっているの。

あとは、目玉をどこに持っていくかというのを、例えば順繰り順繰りやっていくみたいなものは、もしかしたら良い演者を、今年は何々というものに力を入れていくということは一つあるかもしれないですね。

■西岡部会長

分かりました。

では、1・2 についてはこれでよろしいでしょうか。

では、次は2・1 です。

「現在の達成状況」への評価で、学習センターにおけるオンライン講座の取組なのですが、「時間や場所の制約を受けにくい参加環境を提供しており、参加者数の増加という成果にもつながっている点が評価できる。今後もこの成果を継続・拡張していくことが期待される」と。

ここはよろしいですね。

それから、「ちょいカル」は、これは「ちょいカル」でよかったんでしたっけ。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

「ぷちカル」になりました。失礼しました。

■西岡部会長

「ぷちカル」は、文化・スポーツ・学びの3 分野を横断する参加促進の仕組みとして有効に機能しており、地域住民が気軽に参加できる環境づくりに寄与している」と。

これもよろしいですね。

何かここに書かれた方で今ご意見を。

■傍聴委員

「ちょいカル」というのは多分、前の。

ここを「ぷちカル」にしてしまうと未来の話になってしまうので、これはあえて「ちょいカル」にしたのですけれどもね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

事務局で確認します。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

大丈夫です。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

大丈夫でした。失礼しました。

■西岡部会長

では、「ちょいカル」のままでいいということですね。

■傍嶋委員

「ちょいカル」は前の事業という意味で「ちょいカル」にしています。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

傍嶋委員のおっしゃるとおりですので、ありがとうございます。

■西岡部会長

「今後の方向性」への評価」なのですが、「千住宿開宿 400 年にあたる令和 7 年に関連させる意識した活動は評価できるが、千住だけ一部が盛り上がるのではなく、足立区全体に波及できるようにしてほしい」ということですね。

■田島委員

足立区はいつも北千住中心になっているので。

■西岡部会長

そうですね。どうしてもそういうことになってしまいますね。

■田島委員

でも、足立区に住んでいるのは、北千住は一部で、ほかにもっとたくさんの方が住んでいるので、違うところに住んでいると何か疎外感があるんですね。だから、もっと全体に行き渡ってほしいなという思いを込めて書きました。

■西岡部会長

「歴史的な地域資源との連携をさらに深め、千住宿開宿 400 年などの記念事業と日常的な参加促進プログラムを有機的に結びつけた新たな展開が図られることを期待したい」と。

「令和 9 年度から、ギャラクシティの大型改修により施設が使えなくなるので、その時に今と同じ数の事業が運営できるのかも知りたかった」と。

■田島委員

「各センター」と書いてあったので、ギャラクもそうかなと思って書きました。

■西岡部会長

大型改修ですから同じですよ、これは。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。ギャラクシティは令和 9 年度から 3 年間ですね。

■田島委員

2 年間にできませんかね。

■西岡部会長

大型というのはそれぐらいなんです。

文化会館も今度やるけど、あれは 5 年間ぐらい使えないんじゃないですかね。

■田島委員

5年間使えないんですか。

■西岡部会長

いやいや、ごめんなさい、別の大型施設なのですけれども、改修工事に入るとそれぐらい長期で使えなくなるので、だから普通の施設でも大体3年間ぐらいですよ。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

はい。

ただ、ここでやっている事業は、例えば庁舎ホールであったり、シアター1010であったり、いろいろなほかの施設で何かしら、3年間全く活動がなくなると団体自体の力もあれなので、その辺は区のほうでも考えていきたいと思っております。

■田島委員

プラネタリウムも。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。プラネタリウムなんかも、ミニプラネタリウムがあるので、逆にそういうものはアウトリーチで、学校であったり学習センターだったりということで。

■西岡部会長

移動用の何かあるんですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

移動用のがありますので。

■田島委員

3年間はつらいなと思ったので。

■西岡部会長

あと、何か付け足したほうがいいこととか、あるいはここの中の文言について。

■葛西委員

資料2の一番下に書かせていただいたのですけれども、これは難しいところで、指標①がもう達成率100%を超えていると思うのですけれども、学習センターは本当に素晴らしいと思っていて、すごくいろいろなことをされていらっしゃるじゃないですか。

それは素晴らしいと思う一方で、この「要因分析」のAのところに「学習センターは、趣味教養的な講座に加え」みたいなことが書いてあると思うのですけれども、実際に中身を見てみると、その講座がいい・悪いではなくて、文化・芸術という枠の指標に入れていいのかしらみたいな講座、例えばパソコン初心者講座とか、スマホ講座とか、ヨガとか、いろいろあると思うのですけれども、多分それらが全部入り混じって、学習センターに参加されている方も入ってしまうようなみたいなことを常々思っています。

■西岡部会長

そうですね。僕も新宿区ですけれども、割とそういう知識に対する区民のあれは。

■葛西委員

でも、僕は、学習センターというのは本当に地域のコミュニティー拠点としてめちゃくちゃすごいと、特に足立区はすごいと思う一方で、文化・芸術というカテゴリーにどう判別するのか。中身も文化・芸術の講座もあれば、多分生活講座みたいなものもあって、その仕分けだったり、質を問うことは今後長い目でできないのかなと。ごめんなさい、去年も同じ話をしているかもしれな

いのですけれども、常々思っています。

■西岡部会長

区の学習センターの機能としては割と幅広いということですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね、生活に特化したものも含めて。

■葛西委員

すごく地域の方にとって、特に高齢者にとって、おじいちゃん、おばあちゃんにとってすごく大事な場ではあると思うのですけれども。

■西岡部会長

そのクオリティを上げていくということはもちろんね。

■葛西委員

そうですね、特に文化・芸術という観点で見たときに。

■西岡部会長

必要ですね。

■葛西委員

はい。文化・芸術ではないコンテンツはこの指標からは除外できるような仕組みをつくるとか、その講座自体はもちろんあったほうがいいと思うのですけれども、この指標の中には入れないようなものをつくるとか、そういうシステムが長期的にできたらいいなと思っています。

なので、「今後の方向性」のところにそういった「質の達成度」みたいなものも長い目では出していきたいよねみたいなことが入れられると。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

アンケートの取り方で、「どんな講座に参加したことがありますか？」で分けると、クロス集計で落とし込んでいけるかもしれないですね。

■葛西委員

そうですね。

■西岡部会長

ありがとうございます。

それでは、全体評価、達成度、方向性についての点数はこれでよろしいですか。4、4、3ということで。

ありがとうございます。

それでは、2・2に行かせていただきます。

ここは先に、全体評価のところの点数がちょっと変わりますので、これを3にさせていただけるでしょうか。右側の「推進委員会による評価」のところの全体評価の点数が今は4になっていますが、3をお願いします。

それで、「現在の達成状況」への評価なのですが、「指標③の増は、定期演奏会や区が共催した各種文化事業などの取組み成果が現れていると評価する」と。

「えんチャレ事業においては、チャレンジャーの更なる活動の活性化と支援を図ってほしい」と。

「文化団体への後援が令和5年、6年と徐々に増えている点の評価したい。これからも、区で活躍する文化芸術団体を応援して欲しい」と。

「区内の音楽団体3団体による定期演奏会は、地域に根ざした音楽活動の活性化が図られ、日常

的に質の高い音楽芸術に触れることができる環境が整いつつある点が高く評価できる」ということで、これで項目についてはよろしいでしょうか。何か文言なり、あるいは付け足したほうがいいようなことがありましたら。よろしいですか。

では、「今後の方向性」への評価です。「えんチャレの新規登録者に「中国雑技」の団体が入ったが、今後も多様なチャレンジャーが出るよう広報も行っていきたい。制度の活用方法や得られる支援、ネットワークの利点などを明確に伝えることで、新たな登録や活動参加を促進し、地域全体の文化活動の底上げにつながることを期待される」と。

次が「郷土博物館がリニューアルオープンしたが、地域的にも離れたところから来場できない方もいるため、所有物の巡回展示などにも期待する」と。

これは一応、閉鎖期間中などは中の展示物の巡回というか、外に出すことはやっていたんですよね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。アウトリーチを。

ただ、本物を持っていけないこともあるので、その辺はレプリカを持っていったりとか、あとは公演会をやったりというところは今後も随時やっていく形になりますね。

■西岡部会長

外の博物館との連携で何か出せたりとか、そういう活動もやっているわけですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

はい。

■西岡部会長

「短期の取り組みも中小期」……、「小」は「長期」の「長」でよろしいですか。

■田島委員

すみません。

■西岡部会長

「中長期の取り組みも具体的に記載されている点を評価したい」と。

これまでのところで何か。今 2-2 ですけれども。

■葛西委員

度々すみません、葛西です。

私、2点この項目はあって、1点目が、えんチャレとか区の共催事業は一定の成果があると思うのですが、この指標の「個人や団体の活動の継続を支援する」ということを考えたときに、えんチャレとか共催はある程度レベルの高い人向けの支援の印象があって、それはすごく大事だと思うのですが、一方で、もう少し裾野を広げた支援というところの観点も忘れてはいけないみたいな一言はあったほうがいいのかとは思いました。それが具体的に何なのかと言われると、いわゆる公演になるのか、会場の紹介とかになるのか分からないのですが。

■傍嶋委員

僕のほうにも書かれている点として、個人や団体が活動するに当たって、やはりメリットですよね。多分、えんチャレに関わることへのメリットというのは、やはり借りられるという。

ただ、やはり一般の方々とかにも、得られるメリットが明確な告知方法があったりするのかなと思いますね。

ただ、やはりえんチャレや文化・芸術団体に所属したほうがメリットは大きいのであるならば、

ただ、それはやはり団体やプロのスキルを持った人で、さっき葛西さんがおっしゃったように個人となるとちょっと弱い立場ではあるので、そういった方々がより施設を利用できるような広報活動が広がればいいなと思います。

■西岡部会長

あと、手としては、アンパシ的な美術展で、審査のないようなものの企画というのは一つ方法がありますね。

■傍嶋委員

最近、取手市だと、アンデパンダン展という無審査でプロから一般の赤ちゃんから誰でも展覧会に参加できるというのをやると、より発表の機会が増えたりというのが。それは指定管理団体がうまくやっているんですね。

■西岡部会長

そのえんチャレ版というので。

■葛西委員

そうですね。

■西岡部会長

そうすると、技術的なことはあまり問題なく、それぞれ公演のチャンスが得られるみたいなことはあるかもしれないですね。

■葛西委員

あと、もう1点は、えんチャレをもう少し測る指標があつていいのではないかなという気はする。前回の議論にもかぶるのですけれども、えんチャレは私も若いときに大変お世話になったのであれなのですけれども、個人的にもっと足立区との連動というか、えんチャレは足立区が支援しているんだよということと、アーティスト自身も足立区に還元するんだよというのが個人的にはもっと強くて、今のえんチャレがどうなっているかは分からないのですけれども、当時いた身からすると、あまりアーティストの方々が「足立区ありがとう」というか、「そのために足立区にこれぐらい僕らも還元したいんだ」みたいなことをしっかり持ってくれているアーティストがどのぐらいいるのかというのが若干個人的には疑問で、せっかくすばらしい取組をされているので、もっと区民還元をしっかりと取れる指標みたいなものもあつていいのかなと思いますね。

■西岡部会長

「今後の方向性」のアの部分なのですけれども、書くとしたらここで、足立区との関係とかそういうものを維持できるというということですよね。

■葛西委員

うん。

■傍嶋委員

PRしてくれるといいですよ。

■葛西委員

そうなんですよ。もっと足立区さんは強く出ていいのではないかなと思うのですけれどもね。

■傍嶋委員

Tシャツとかを着てほしいですよ、「足立区」という。それぐらいのスポンサーで。

■葛西委員

そういうことだと思うんですよ。

■傍嶋委員

あなたたちは大使ですよ、エンターテインメントの誇りを持ってという。ある意味でスポンサードしているわけですから。

だから、それぐらい看板を背負って、足立区内ではなくても、例えばほかのエリアに行っても、旗とかを持ってほしいですね、「足立区ラブ」という。それが足立区にとっての還元やPRにもなるので、やはり提供している分、何かバックがあるとうれしいよねというのがありますね。

■葛西委員

例えば中国雑技の方とかがどういう所属の、どういう出身の団体なのかは分かりませんが、例えば本当に中国でツアーをやるときとかに、せっかく天空劇場で練習してやるのに、そこに足立区さんのあれがないと、足立区の税金がただほかに持っていかれただけみたいになってしまうし。

■傍嶋委員

うまく利用されているだけ。

■田島委員

納税している身としてはそうですね。PRをもっとしてほしいですね。

■葛西委員

これは、えんチャレさんにお世話になった身として、もっと全然。

■西岡部会長

では、足立区との何か継続性のある……。

■葛西委員

「足立区はもっと強気でいこうぜ」みたいな。分かりませんが。

■田島委員

お願いします。周知を広げるということですね。

■西岡部会長

確かにそうですね。足立区でやって、そこからある意味で社会に出ていく支援をしているわけですからね。

■葛西委員

じゃないかなと個人的には思っていますけどね。

だから、結論で言うと、登録団体数だけで測らないほうがいいよということですね。その団体が何を足立区民にやってくれたのかとか、逆にそれをどれだけ区民の方が知ってくれているのかとか。

■西岡部会長

そうですね。地域全体の文化活動の底上げにつながることを期待されるというのは大事なことです。

■葛西委員

というのを思った次第でございます。

■西岡部会長

全体評価は3になりますが、これでよろしいですか。

これは、点数は3.何なのでしたっけ。大体きっちり3？

■事務局（地域文化課調整係主任）

そうですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

一番上だけ小数点を入れていないんだっけ。

■事務局（地域文化課調整係主任）

そうです。達成度と方向性で自動的に出るような形になっているので。

■西岡部会長

なるほど。

では、3で、達成度が4、方向性が3、これでよろしいですか。

ありがとうございました。

では、次に行きます。2・3です。

これも、点数のところなのですが、資料3の右ページです。全体評価は3なのですが、その次の達成度が4に上がります。4に修正してください。

それでは、「推進委員会による評価」の（1）「現在の達成状況」への評価です。「ふれあい祭り」は令和4年度よりも令和5年度により多くの方が参加できている点を評価したい」と。

「ADACHI 障害者アート展」や「大ひょうげん」といった事業を通じて、障害のある方々や子どもたちなど、多様な人々が主体的に参加できる機会が充実しており、インクルーシブな文化環境の醸成に貢献している」ということでした。

これについていかがでしょうか。よろしいですか。

では、（2）番の「今後の方向性」への評価です。「区外へ鑑賞に出かけたり、作品づくりをしている方でも、区の関連するイベントや団体に参加していない方が障がい者も含めて存在する。団体以外の個人からも足を運んでもらったり作品をだすような裾野の拡充を図ってほしい」ということですね。

その次ですが、「共催イベントについて、令和5年度に21イベントだったものが令和6年度に18イベントになったとあるが、この現象には高齢化などの問題があるように感じる。短期や中長期の取り組みの中で、少子高齢化などの社会事情について区がどのようにアプローチしていくかについて記載があると更に良かったように思う」と。

これはどなたが。

■田島委員

私です。

■西岡部会長

ありがとうございます。

これは、イベント数について、高齢化などの問題と。

■田島委員

私の肌感覚なのですがけれども、周りの方でこういう文科系のイベントに参加している方は高齢者の方がすごく多くて、高齢化の問題でやらなくなった方とかも結構いるような印象をすごく受けるのです。なので、そのように書かせてもらいました。

■西岡部会長

なるほど。

■葛西委員

私も同意見で、私も資料2の下の方に書いたのですがけれども、多分この指標というか施策名が「活動の成果を発揮できるイベントを開催する」ということなので、いろいろな地域団体の方が披

露できる、まさにふれあいまつりみたいなイベントを増やしていくということが目的だと思うのですけれども、その上で、「今後の方向性」の「中長期の取り組み」に「区民との協創を図りつつ、ニーズに合った発表の場を作っていく」と書いてあるのですけれども、これは多分、区がつくるということだけだと限界がある気がしていて、どちらかというと伴走支援というか、区がどうやって、そういった高齢化していくいろいろな文化活動に興味のある方々が自分たちでこういう地域のお祭りとかイベントを、披露の場をつくって、ある種まちづくり的な観点が必要なのではないかなと思っていて、そういった一言も「今後の方向性」のところに、伴走支援というか、行政がつくるだけではなくて区民がそういう場を自分たちでつくって、自分たちでコミュニケーションを取ってつながりづくりをしていくみたいな観点が入ったほうが、中長期的に可能性を感じるかなと思った次第でございます。

■西岡部会長

区というよりも、区民自体のアプローチが必要だということですね。

■葛西委員

そうですね。こういったお披露目の場は、別に区だけがつくるものではなくて、地域住民さんたちでお祭りをつくって、そこで地域住民の皆さんの披露の場があるというのが本来的というか。

■西岡部会長

そうですね。昔はそうだったのですけれどもね。

■葛西委員

それをどう行政の皆さんがサポートというか、伴走支援をしていくかみたいなところが観点なのかなと。

■西岡部会長

なるほど。

この後のウについても同じことですよね。「既存の優れた取り組みをさらに広げ、参加者層の拡大と地域全体の文化活性化につなげていくことが望まれる」ということですよね。

■葛西委員

はい、そうですね。

■西岡部会長

ここは文章を付け加えさせていただく可能性があるということでよろしいでしょうか。

■葛西委員

はい。

■西岡部会長

それでは、点数なのですが、全体評価が3、達成度が4、方向性が3、これでよろしいですか。ありがとうございます。

では、その次に行きます。3-1ですね。

評価の点数なのですが、資料3の「推進委員会による評価」で、全体評価が4、達成度が4で、その次の方向性のところが3になります。変更をお願いします。方向性が3です。

「現在の達成状況」への評価」というところで、「郷土博物館を中心に区内の歴史的文化資源を活用している点を評価したい」と。

これはよろしいですね。

「より多くの子ども達が区内の文化に親しめるよう郷土博物館を見学できる事業を行って欲しい

と思う」と。

■田島委員

アクセスが郷土博物館はあまりよくないので、できれば小学生たちが見学できるように学校と連携を取って、遠足の間とか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

今、学校のバスで来るのは、ほとんどの学校が来るのではないかなと。

■田島委員

本当ですか。よかった。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

毎週毎週いろいろな学校が。ちょうど3年生に郷土を知るという科目があって、そのときに。

■西岡部会長

総合か何かですかね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。

■田島委員

では、もう大丈夫だ、学校が行っていれば。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

学校は、先生と一緒に連れてきてくれるという。

近くだけではなく、梅島とか島根とか、全校からいらっやっています。

■田島委員

では、幼稚園にもお願いします。

■西岡部会長

では、評価としては、評価できるという形でいいわけですよね。行っていることが評価できるということでもいいですね。

■田島委員

そうですね。

小学校の遠足ということですよ、3年生の。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。社会科見学ですね。

■西岡部会長

では、評価できるという形にしたいと思います。

「「舎人氷川神社本殿」では約 2,100 人もの来場者を記録するなど、区民をはじめとした来訪者の関心の高さがうかがえる。こうした文化財の一般公開やイベント化による利活用の成果は、地域文化への理解と誇りを醸成する点で非常に意義深い取り組みである」と。

ここまでで何かご意見はございますか。あるいは文章について何か修正が必要だと思われるところは。よろしいですか。

では、「「今後の方向性」への評価」です。「郷土博物館が所有する貴重な文化財の更なる活用をしてほしい。そのためにも区内外の機関や個人にも協力してもらいながら充実させてほしい」と。

この「個人にも協力してもらいながら充実」というのは、どういう内容になるのでしょうか。これはどなたから頂いたのか。

■傍嶋委員

小泉さん、今日いらっしゃらない。

■西岡部会長

そうかそうか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

今ちょうど郷土博物館のリニューアルで、一番大きいところは、収蔵庫をしっかりと温度管理・湿度管理ができるような仕組みになっています。やはりそれも含めてで、どんどん今は寄贈の申出が多いんですね。ずっとお持ちの方はすごくその作品を大事にされている。郷土博物館だとちゃんと管理してもらえるとというところの信頼関係が非常に今構築されているので、そういった意味合いの中では、区内の文化財がしっかりと管理できる方向性に進んでいるのかなとは思っています。

■西岡部会長

この「個人にも協力してもらおう」というのは、寄贈などということでもいいわけですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。

■西岡部会長

では、これでよろしいですね。

「千住宿開宿 400 年に関連する展示を通じて、もっと郷土博物館の存在を知ってもらい、区民により足を運んでもらえるよう努めてほしい」と。

「短期の取り組みについて、千住宿のイベントとコラボして行うなど具体的に記載している点を評価したい」と。

「文化財の見学イベントに加え、文化財の魅力を多角的に体感できる取り組みとして、見学と体験を融合させたプログラムの拡充が期待される」と。

この「見学と体験を融合させたプログラムの拡充」というのは、現在ある程度はできているのですかね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

どんなニュアンスなのですか。見学と体験……。

■西岡部会長

だから、例えば見学に行ったときに何か体験できるということですよ。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

今年は、小学生の夏休みの課題研究なんかで、伊興遺跡公園で、通常は土器とかが飾ってあって、手を触れてはいけませんみたいなものがほとんどなのですけれども、触れていい土器を持って行って、しっかりとその重さを見てもらうとか、「縄文式は重いね。弥生式は少し軽いね」みたいな。普通は教科書に書いてあるだけの、薄くなりましたみたいなものが、しっかりと触れるような活動なんかを今年新たに始めたところですね。

■田島委員

本物を触っていいんですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

本物も触って。

■西岡部会長

最近そういう展示の方法が物すごく変わってきて、割と実際に触ったりできるものが多くなって

いますね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

郷土博物館も今、酒合戦で、おちょこの大きいやつを、本物はさすがに触れないのですけれども、レプリカでそういうものを持って、「これでお酒を飲んだの？」というものを今回千住宿のときには展示して、触ってもらえるような試みもしているので、そういった意味では見学と体験がうまく融合されてきているのかなとは思っていますね。

■西岡部会長

僕はまだ行っていないのであれなのですが、展示物も昔に比べると、単なる絵とか何とかだけではなくて衣装関係のものとかも最近すごく多くなって、その見方で一番簡単なのは例えばぐるっと回れるとか、展示方法がすごく変わっているので、多分ここは新しいいろいろな試みがあるのですよね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。

■西岡部会長

あとは、収蔵庫というのは物すごく大変なことですよ。だから、今はどこの美術館も、図書館でもそうなのなのですが、なかなか寄贈をそのまま受け入れられない。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

いっぱい。

■西岡部会長

そうですね。温度とか湿度の管理が難しいということなので、それは今、個人の寄贈みたいなことは割とうまくいっているのですよね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。ありがたいことにどんどん頂いていますので、拡充して、外部倉庫も含めて広がっているところですね。展示数はどんどん増えている状況です。いいものが出てくると、やはりしっかりと管理しないといけないので。

■西岡部会長

そうですね。

では、ここは「そのためにも区内外の機関や、さらに個人にも協力してもらいながら充実させてほしい」ということでよろしいですね。

「見学と体験を融合させたプログラムの拡充が期待される」、これはこれでよろしいですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。今進めている方向性と一貫してくるかなと思っています。

■西岡部会長

では、数値の確認なのですが、全体評価が4、達成度が4、方向性が3、これでよろしいでしょうか。

何か委員のほうでお書きになったことで、「俺のが何で入っていないのか」みたいなことがあると思うので、どうぞ遠慮なく言ってください。

それでは、3・2に行きます。ここは数値の変更がありません。

「現在の達成状況」への評価に行きます。「伝統文化親子教室・郷土芸能大会・しょうぶまつり、区民祭りでの鑑賞機会の提供などの取組みは評価できる」と。

「伝統文化親子教室」は家庭内での文化継承のきっかけにもなっており、次世代への伝統文化の継承という観点からも大変意義深い。引き続き安定的な開催とともに、参加枠や開催回数の拡大も期待される」と。

これでよろしいでしょうか。何か付け足すこととか修正みたいなこと、気になることはございませんか。大丈夫ですか。よろしいでしょうか。

では、次に(2)のところですか。「今後の方向性」なのですが、「人口も増え転入者も多い、次世代への承継含め伝統芸能などの鑑賞と体験ができる機会を増やすようにしてほしい」と。

「中長期の取り組みについて、すでに少子高齢化が進んできている中で区がどのように伝統文化の継承・活性化を行っていくのかも具体的に記載して欲しかった」と。

ご意見は何かありますか。

■田島委員

肌感覚ですが、周りの方は結構高齢者の方がこういうことをやっているイメージがすごくあって、それに対して、あと5年後、10年後、この人たちは多分できないのではないかなと思う中で、どのように区がアプローチしていくのかということを書いてもらったほうがよかったなと思いました。

■西岡部会長

分かりました。

ウです。「日本の伝統芸能は、単なる文化的教養にとどまらず、地域住民が自らの文化的ルーツや誇りを再認識する機会を提供するものであり、シビックプライド（地域への愛着や誇り）の醸成に大きく寄与する。今後は学校・地域団体との連携を含め、より多様な形式・対象での事業展開を図り、地域ぐるみで伝統芸能に触れられる環境づくりが期待される」ということですが、これは？

■傍嶋委員

田島委員がおっしゃったように、やはり高齢化が進んでいるので、学校とか若い世代にどう触れ合ってもらえるか、機会を。連携が大事になってくると思います。

■西岡部会長

ありがとうございます。

葛西委員のものがこちらにまだ反映されていないので、もし何かありましたら。

■葛西委員

私も傍嶋委員と非常に近い考えなのですが、田島委員とも同じで、「中長期の取り組み」に書いてある内容が、「お祭り・お囃子など、区に根付いている魅力的な伝統文化の継承・活性化を支援していく」というところが非常に抽象的で、恐らくこのままいくとなくなっていくのだろうなというあれなので、これも個人的な考え方ですが、地域のお祭りとかおはやしを継承していくというのは結局地域愛を育んだ結果の話だと思うので、どちらかというとこれはまさに「ちょいカル」というか、文化・芸術だけの問題ではなくて、やはりまちづくり、地域愛、そういった観点の話だと思うのですよね。

なので、具体的な取組のところに、それこそ町会とか、地域何々課のような部署の方々と一緒に連携して、いかに足立区の一つ一つの地域を守っていくかみたいな観点からの取組が多分必要なのだろうなと思っていて、それはまさに傍嶋委員が言ったように学校とか地域団体とかとの連携ということになっていくと思うので、その文言は入っていたほうがいいかなと思いました。

■西岡部会長

なるほど、分かりました。ありがとうございます。

では、点数の部分なのですが、全体評価が3、達成度が3、方向性が3、これでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、4-1へ行きたいと思います。点数の変更はありません。

「現在の達成状況」への評価で、「指標③は、令和4年度を上回り、令和8年度の目標値(60000回)も上回ったことは評価する」と。

これは、既に上回っているぞということでよろしいですか。令和8年度の目標値を既に令和6年で上回っているぞという書き方ですね。それでいいのですよね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

はい。

■西岡部会長

この「目標値」というのは、括弧して書いてありますけれども、これはもう確定している数値なのですか。それとも、今後まだ変更の可能性はあるのですか。例えばこれまでの実績みたいなものを見て、さらに変更の可能性はありますか。

■事務局（地域文化課調整係主任）

これは計画をつくった令和2年のときに設定しているもので、変更はしない考えでおります。

新計画をつくるときにまた考えることになると思います。

■西岡部会長

分かりました。

では、この文言はこのままでよろしいですね。

「マンガを情報発信のツールの一つとして活用したり、SNSの取組みも評価できる」と。

それから、イです。「引き続きSNSなど様々な方法で周知を行って欲しいと思う」と。

アと重なることですが、ア・イは1つの文章にしようと思えばできないことはないですよ。これは考えてみます。

ウです。「学習センターが発行するミニコミ紙において、近年デザインの改善が図られたことは、視認性や親しみやすさの向上につながっており、情報伝達力の強化という点で大きな成果を上げている。区民にとって有益な情報が届きやすくなっている点は高く評価できる」と。

これはまさにそうですね。

ここは何かございますか。文章について、あるいは付け足したほうが良いようなことについて。よろしいでしょうか。

では、取りあえず次へ行まして、「今後の方向性」への評価です。「足立区の新住民も多いので、郷土博物館のPRや身近な地域の文化的魅力を学習センターのミニコミ紙などでも紹介するなど、指定管理者とも連携協力して、PRすることに期待したい」と。

イ「短期の取組みについて、千住宿開宿400年を契機としたグッズ販売の際に関連して郷土博物館を紹介するなどの周知の方法は良いと思う」と。

ウ「区民により親しみを持ってもらい、文化・学習活動への関心を高めていくためには、目を引くキャッチコピーの工夫や」……、ここは「目を引く」はなくてよろしいですか。「キャッチコピーの工夫や」でいいですか。

では、「キャッチコピーの工夫や、オリジナルグッズの活用など、日常的に接点を持てる仕掛けが効果的である。広報を単なる告知手段としてではなく、文化への入り口とするような発想で、今後

さらに創造的かつ柔軟なアプローチが展開されることを期待したい」と。

これはいいですね。

これは、区のほうで何かこういう金銭が絡むようなことはどの程度可能なのですかね。グッズを売るとか、そういう PR 系のことというのは比較的今はできるんですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そうですね。郷土博物館では、博物館のグッズを……

■西岡部会長

博物館のほうは大丈夫ですよ。

区自体が何か動くということはあまりできないですよ。最近はできるんですか。無料配布みたいな情報のあれはありますけれども、何か売るみたいなことというのは、そういうのはあまりできないですよ。それは各施設がやるということですよね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

はい。

■西岡部会長

分かりました。

だから、「オリジナルグッズの活用」というのは、各施設でそういうことをやってほしいということですね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

はい。あとは、イベントの参加賞でお渡しするグッズなんかは結構ありますので、そういうときに文化に触れてもらう機会にするという意味では、そういうグッズの活用というはあるかもしれないですね。

■西岡部会長

そうですね。分かりました。

葛西委員から何かございますか。よろしいですか。

■葛西委員

はい。

■西岡部会長

では、数値のほうで、全体評価、達成度、方向性、全部 3 なのですからけれども、これでよろしいでしょうか。

では、最後になりました。4・2 です。数値の変更はありません。

「推進委員会による評価」の（1）「現在の達成状況」への評価は、「東京藝大との連携した事業など定員を大きく超える応募があるが、人気のある事業には枠を増やしてより多くの区民が参加できるように工夫して欲しいと思う」ということですね。

これもいいと思います。会場の関係とかそういうところで定員の設定がなかなか難しいと思うのですけれども、だけど演奏の回数を増やしてもらうとか、いろいろ工夫はできると思いますので、この文章はそのまま使わせていただければと思います。

イです。「専門性と質の高い文化機関と連携した取り組みが展開され、多くの区民に多彩な文化芸術事業が届けられている点は非常に高く評価できる。一方で、アンケート結果で認知度や参加意欲が低調である点は、広報・発信手法や参加者層の拡大において引き続き工夫が必要であることを示している。事業の質に見合った参加・周知の在り方が今後の課題といえる」と。

すごくいろいろなことが書いてあるのですけれども、アンケート結果で参加意欲が低調であるものに対して広報・発信手法の工夫が必要であるということですね。これもこのままでいいと思います。

この点について何かご意見はありますか。よろしいですか。

では、(2)「今後の方向性」への評価です。「区内の様々なジャンルのアーティストや伝統ある文化芸術団体、民間文化施設など、文化芸術に関する人材などがゆるやかに連携を図ることによる活性化を目指すことは評価できる。但し、個々のお立場、活動の負担にならぬよう配慮してほしい」と。

この後のほうの「立場」とか「活動の負担」というのは、これはどなたが。小泉さんですか。

では、ここは「個々の立場」でいいですかね。どういう意味だったんですかね、これは。「個々の立場、活動の負担」……。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

ここは小泉委員に確認してみましょうか。

■西岡部会長

そうですね。それまでの文章は全然問題ないので。

■葛西委員

勝手な想像ですけども、多分連携が目的になって、それぞれのアーティストが苦勞……。

■西岡部会長

普通の活動以外の負担ということですか。

■葛西委員

とか、シンプルに気を遣うとか、やりたいことができないとか、よくありますものね。そういうことをおっしゃっているのかなと。

■西岡部会長

そうかもしれないですね。

では、イに行きます。「短期の取り組みについて、ギャラクシティにて「アートリンクフェスティバル」を開催予定とあるが、ギャラクシティの改修工事中の取り組みなども記載して欲しかった」と。

「地域の民間アート団体との連携を活性化させるうえで、行政と個別団体のあいだを橋渡しするような中間支援的な組織や仕組みの存在が重要だと感じられる。マッチング、情報共有、人材育成、ネットワーク形成などを担う中間団体が機能すれば、地域の多様な文化活動の底上げと、区全体の文化力の強化につながる。今後の組織設計や制度整備において、こうした視点が取り入れられることを期待したい」と。

これはまさにネットワークとかの必要性で、全体に情報がうまく行き渡るとか、あるいは活性化していくとか、プラットフォームみたいなイメージだと思うのですけれども、これはどなたが。

■傍嶋委員

僕です。

■西岡部会長

そういうことでよろしいですか。

■傍嶋委員

そういうことですね。

■西岡部会長

葛西委員からは何か。「単発の連携施策も」……。

■葛西委員

この4-2の項目だけいまいちよく理解ができていなくて、これはどういうことなのですかね。ごめんなさい、全然答えでもなく、時間もないのであれですけれども。大丈夫です。

■西岡部会長

よろしいですか。

では、点数の確認だけ。全体評価が3、達成度が3、方向性が3、これでよろしいでしょうか。

■葛西委員

最後に1点だけ、ごめんなさい。

これは結局、最後に全部並べてみると「今後の方向性」への評価が結局全部3になっていて、せつかなのにもったいないなと個人的に思っていて、これは私の勝手なあれなのですけれども、何となくさっき話に出た3-2「地域の伝統芸能を継承・活性化させる」の取組が中でも非常に抽象的で、何か具体策がないような気がしていて、何か1個ぐらい2を。

■傍嶋委員

付度してというか。

■葛西委員

全部3なので。私は個人的に2をつけたんですよ、3-2を。

■西岡部会長

では、点数のこともありますし、文章もまた少しずつ修正させていただきたいと思いますので、そのところはこちらでお任せいただいてよろしいでしょうか。

■葛西委員

もちろんでございます。

■西岡部会長

では、この後に事務局と話し合ってまとめたいと思いますので、こちらにご一任ください。

あと、全体についてはいかがでしょうか。これまでのところで。よろしいですか。

では、これで推進委員会による評価について終わりたいと思います。

3 文化芸術分野の区民アンケート調査票について

■西岡部会長

それでは、事務局からの補足説明になりますか。お願いします。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

アンケートのほうは、資料4、5、6を使用してご検討いただきたいと思います。とっております。

資料4が従前と従後で修正したものを一覧化したものなのですけれども、分かりやすいのが、例えば資料5ですと、中を見ていただきますと色分けしてあります。緑で網かけした部分が文化に関する修正点ですので、こちらを一通りご確認いただけるとよろしいのかなと思っております。

■西岡部会長

では、これをざっと確認していきますか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

お願いします。

■西岡部会長

それでは、資料 5 の 3 ページをお開けください。問 8 のところなのですが、11 の新型コロナウイルス、これはもうよろしいですね。

それでは、5 ページをお願いします。問 13「あなたは、どのようなきっかけで作品を観たり、聴いたりしましたか。足立区内・足立区外・オンラインや WEB やテレビなど、それぞれの施設やイベント等について、あてはまる番号を 1 つだけ選んでください」と。これは削除するということで、追加としては「あなたは、文化芸術の情報を、どのような手段で入手していますか」ということになりました。

これはこれでよろしいですね。

では、次のページです。これの変更があるのは、1 の項目を削除すると。これは新型コロナなので、削除されます。

問 15 です。これは問いの部分が削除になるわけですね。「あなたは、問●●のイベントの参加後に、何か」……、つまり参加した後で何か文化・芸術について行ったことがありますかというのが、ちょっと具体性がなくてということですね。抽象的なので、これは削除しようということで、よろしいですね。

それから、問 16 で、「あなたは、その活動をどのようにおこなっていますか（いましたか）」ということなのですが、現在行っていることについてはアンケートとしては欲しいのだけれども、どのように行っているかということについては削除ということで、よろしいでしょうか。

文化・芸術関係のところはここまでですか。それでいいんですよね。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

はい。

■西岡部会長

それでは、回答いただく皆様への回答方法の部分についてはこれで終わります。

資料 6 のほうも確認しましょうか。資料 6 をお開けください。緑の網かけは 9 ページです。

問 3、削除するのは「あなたは、どのようなきっかけがあれば、絵や映画、お芝居などを観たり、音楽を聴いたりするようになると思いますか」ということですね。これは削除して、別の質問です。

「あなたは、文化芸術の情報を、どのような手段で入手していますか」ということで、具体的で分かりやすくなるということですね。文化関係の様々なものは人によって違うので、具体的なものを書くよりも、「文化芸術の情報を」ということになっています。

これでよろしいでしょうか。何かお気づきの点などありましたら。アンケートに関する変更点はこれでよろしいですか。

ありがとうございます。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

基本的には、前回お示しさせていただいて、事務局からこのように変更したいですといったものを実際に調査票ベースで落としてみたというもので、特に事務局から追加での新しいご提案はございませんので、その点でご確認いただければと思います。

■西岡部会長

ありがとうございました。

今回の文化芸術部会としての評価は、最終調整をして、第 3 回全体会で私から他部会へ共有させていただきたいと思います。

アンケート項目についても今確認が終わりました。ありがとうございました。

このアンケートについての議論はまだいろいろしたほうがいいと思う部分もあるかと思いますが、けれども、時間的にもいい時間になってきましたので、第2回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会文化芸術部会はこのあたりで終了させていただきたいと思います。

事務局から何かやり残していることはありませんか。大丈夫ですか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

大丈夫です。

■西岡部会長

本日は、現計画の評価に対する意見交換や新計画に向けたアンケート調査票の検討等、委員の皆様のおかげで非常に濃く深い議論になったものと思います。本日は誠にありがとうございました。

4 今後の予定

■西岡部会長

それでは、最後に事務局から事務連絡をお願いします。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

本日はご議論をどうもありがとうございました。

事務局から3点ご連絡させていただきます。

まず次の開催でございますが、9月26日の午後2時からを予定してございます。第3回の本部会のほうですね。今後日程が確定し次第、また速やかに通知を送らせていただきたいと思います。

今日いただいた議論は、部会長からありましたとおり、事務局と少し調整をした上で、先ほど点数の件もございましたので、少し調整をして、事前に確定したものは委員の皆様にご連絡させていただきたいと思っております。

また、本日の会議録につきましては、併せて案を作成し、送らせていただきますので、ご確認をよろしくお願いいたします。

車の駐車券は後でお渡しさせていただきます。

事務局からの連絡は以上です。

皆さん、どうもありがとうございました。

■西岡部会長

では、今日はありがとうございました。